



佛說

善惡因果經鼓吹
五

八字笈中段
丁



善惡因果經龜鑑卷之五目錄

- 一 万境ホ心ノ作用サ名義
- 二 地藏王氏ニ破地獄ノ文ヲ授ノ術サツル
- 三 鷹鳩ト變タカハトシ橘枳トナルノ譬タカハト
- 四 牛哀成虎食アイ兒トクダラ
- 五 万法ホ心ノ反作サ名證并サツル譬言說
- 六 孟母ノ三遷モウモ
- 七 用心ト云ノ例證
- 八 心意識ノ分別
- 九 尼智道力順現業
- 十 二門口月八三ノ字義
- 十一 鬱頭藍弗依惡願感飛狸身ウツカ
- 十二 忍辱仙ノ本緣
- 十三 世高ノ同學トウガク隨ス蟒蛇マウダ神述シム
- 十四 兄ケイ聖者ト成弟ハ白象ニ生シ因果別ナル論

五 法顯盜賊ヲ教誡スル語

六 禮佛五功德ノ引文

七 周禮九品ノ拜細釋

六 西域九等ノ禮

九 七種ノ禮法

二 憍慢ノ名義

廿 畢陵伽ノ慢心ノ餘習

三 恭敬ノ名義

廿三 桑維カ短小

四 馮偃恥短小取長大女述

廿五 慢ハ姓陋ノ因名ノ引證

其比丘惡塔大緣

廿七 車波伽爲妻求菴果緣

其羊八狼戾ナル云證并釈文

廿九 法師ノ前生羊名ノ物語

三十 醜黒ノ生ラウクル夙業并引文

卅一 靈曆智凱形黒ト云縁

卅二 齊食ノ名義并引文

卅三 阿那律本生盜賊名縁

卅四 臯陶聽詔無虛刑述

卅五 武氏カ母聾瘂名ノ述

其法華誹謗者業因感果引文

卅七 瘡瘕ノ報ラウクル罪因

卅八 聞法八德ノ引文

卅九 烏闍法生切利縁

卅九 耳聾報不局一因引文

四一 民田張蘊受聾報述

四二 牙齒ノ生ト亂トハ自然ノ數タルノ論

四三 達磨ヲ缺齒老胡ト云述

四四 香ノ德義

四五 香氣ヲキラウノ罪果

四六 玄瓊依佛舍利香氣瘡鼻塞述

四七 靜之依心經功愈鼻肉

四八 泳之方千缺脣名ノ述

四九 蔦賈治兵述

五〇 穿胸國

五 蛇体ト云名義

五三 慧靜ノ傳

五三 覺名ノ父感現報弁

五四 慧海依佛舍利寧寔差述

五五 子輿力背倭

五六 崔善力曲倭

五七 橐駝力傳

五八 打額名義直叙問答

五九 弘景傳

六〇 費氏力心痛

六一 曾參ノ孝感

六一 敬彙ノ孝心

善惡因果經龜鑑卷之五

○二三 答ノ中ニ三ツ標ト列ト結トナリ一ニ佛告阿難ヨリ千差萬別ニテハ標文即惣答ナリニツ今身端正ヨリ爲人扶掖ニテハ列釋即別答ナリニツ佛告阿難ヨリ舌即墮落ニイタルニテハ惣結ノ文ナリ

○初二標文

佛告阿難如汝所問受報不同者皆由先世用心不^レ等是以所^レ受千差萬別

夫レ心ハ萬境ニシタカツテ轉ス轉スルトヨ唯善ト惡トナリサレハ一切ハ是心ノ作用ニシテ他ニ求ニアラス心能^レ地獄ヲシ心能^レ天堂ヲナス爰ヲ以^レ凡夫トナリ賢聖トナルニテ是心トナストコロナリ

木京兆ニ人アリ姓ハ王其名^レラス本ヨリ

一 万境ハ 心作 用義 名義

二 破地獄文 王

戒行ナクムカレサラニ善根ヲ修セス或トキ病患ニカ、リテ
ステニ死ス二人ノモノニヒカレテ地獄ニイタル獄門ノ前ニテ一リノ
僧ヲ見ル云ク是地獄菩薩ナリト即ラシエテ偈頌ヲ誦セシム
云、若人欲了知三世一切佛應觀法界性一切唯心造菩薩
此經偈ヲ授スリテ謂之曰此偈頌ヲ誦レ得ヌ六能地獄ノ
苦ヲ破スト其人^王偈ヲ誦レハリテ遂ニ地獄ニ入閻魔王ニ
マシヨ閻魔王^氏ニ問汝何等ノ功德カアルト答云我ニシイテ
サセルノ善ナレ唯一ツノ四句ノ偈ヲ受持セリト閻魔王四句
偈ヲ誦レ得タルコトヲ聞テ^{効免}免レヌ因テ此偈ヲ誦スルトキニ
アタリテ^聲ノイタルトコロノ地獄ノ罪人ニチコトクク解脱スルコトヲ
得タリ後三日アツテヨミカヘル故ニ此文偈ヲ破地獄ノ文ト云也
是ヨリ後此偈ヲ憶持シテ諸ノ道俗ニ向テ説之ト今云フ

三

三鷹 反鳩 枳成 橋弁

四 牛哀 成牛 述 五

ヨロハ心能地獄ヲ造リ心能佛ヲ造ルト云是ナリ纂靈記ニ見エタリ故ニ
心ハ虚靈不昧ニシテモノゴトニ定ス其アトヲ不見レカモ物ニ
レタカヒテカハリモテ行モノナリ鷹化シテ鳩トナルトキ鷹ノ
本心タチマニツキテ鳩ノ性トナル或ハ橋變ノ枳トナルトキ橋ノ
味^味永ク消スルカコトレ有情無情各定ノ性ナレ唯心ニシタカツテ
變レ業ヲ逐テ生ス故ニ九ヨリ聖ニ入ルノ門アリ惡ヲ轉メ善ト
ナルノ事アリト因縁無性論サレハ牛哀トイヘルモノアリ病コトセ
日ニシテ忽ニ化ノ虎トナル其兄アリ围ノ戸ヲ開テ是ヲ見ル虎
其兄ヲ食殺ス其虎トナルニイタリテハ其カシ人タルコトヲシラス
又牛哀人トナリヌ其トキニイタリテハ又虎タルコトヲシラス南
子^子出 愛ニ知又萬法ハ唯一心ノ反化ニシテ其跡タルコトヲ不見
故陳氏曰心之体本自虚明而其用則隨物而應無有形迹矣

万法
心所
作名
譬

六

孟妙
三遷

カレハ摩尼珠ヲ黄ナル帛ニツ、ミテ水ニ入ル水即黄ニナリ
 玄帛ニツ、ミテ水ニ入ル水即玄クナル朱紫モ又シカナリ今
 一切衆生ノ心モ亦復如是我行フトコロニシタカヒテウツリ行
 モノナリ是ヲ我心ノ影響ナリトタトヘテ形ニシタカフ影ノ如ク
 撞ニシタカフ鐘ノ響ノコトトイヘリ **孟子**早ク父ニラテ墓所
 ナリ又因テ母是ヲ撫育ス其舎佛寺ノホトリニアツテ墓所
 ナカレ孟子墓間ニ戯アソヒテ常ニ浮圖ノ行ヲマナヒナラヘリ
 母ノ云是我子ヲ處ヘキユヘニアラスト云テ乃シ去テ市ノ傍ニ
 舎居ス孟子常ニ商人街賈ノ事ヲノミ嬉ナセリ母ノ云是又
 我子ヲラクヘキトコロニアラスト云テ後ニ遷テ學校ノホトリニ居ス
 乃シコニライテ祖豆ヲマウケテ宗廟ヲ祭ノ事ヲナラヒ揖遜
 進退ス孟母ノ云是ニコトニ以我子ヲラクヘキニ足ヌト云テ

七

用心
ト云
例證

八

心意
識ノ
分別

遂ニヨ、ニ居ノ後 孟子天下ノ鴻儒トナレリト 列女傳ニ見エタリ 是ヲ孟
 母ノ三遷ト云サレハ孟子タクマサルニ心角ウツリ行ク何ニ況マ
 前生ニウエトコロノ善惡諸業心ノ用木ニ非スト云コトナレ **用**
 心トハ心ノ主宰ヲ云ナリ李廣ヒロク群書ニ涉獵シテ後侍御
 史トナル忽チ妻ニ謂テ云吾サキニ睡コトモコトニ子フルニアラス忽チ
 一人アツテ吾身ノ中ヨリイテ、曰君 李廣 用心過苦ス精神ノ
 堪ルトコロニアラス今君ヲ辞レ去ト云因テ恍惚トシテタノシマス
 疾ニアフテ死セリト 北齊史ニ見エタリ 此即心ヲ其事ニ用ノ證ナリ **心ハ**
 止觀ニ云對境覺知異乎木石名爲心心籌量名爲意了々別
 知名爲識矣俱舎云習起名心籌量名意了別名識矣具
 翻譯名義集 今心ト云ハ心意識ヲサ子用ノ詞ナリ今受報不
 同ニレ所受萬別ナリトイヘトモスヘテ是ヲ云ニ善惡ノ二業順

九

智道 現業

十日 二日 八日 字義

次現後ノ三業ヲハ出サルナリ 初二順現業トハ現在ニ善惡ノ
 二業ヲツクリテ即現世ニ其業果ヲウクルヲ云ナリ簡靜寺ノ
 尼智道後ニ出家シマメテ俗ニカヘリ梁群南ト云モノ所ニ
 婚嫁メ子ヲ生ス其子漸ク七歳ニナリレトキ家ニツクシテ
 子ノ膚ヲカクスヘキニ便ナシ智道尼タリレトキ素綸ヲ以
 カキタリシ法華經アリ即思惟シ分別ノ水ヲ以素綸ノ法
 華經ヲアラヒ流シ白衣裳トナレテ我子ニ著セシム忽チ遍
 身ニ瘡生シ白キ蟲身ヲタリテ鳴コト十餘日ハカリレテ
 死ストキニ虚空ニ聲アツテ云經ヲマフリ衣ニツクリ著タル
 トコロノ惡報今現ニウクルナリト 佛祖統紀 或モ市中ニ
 ツイテニ升ヲツカフ内ニラサムルトキハ大ナル升ヲ用ヒ外ニ
 出ストキハ少ナル升ヲ用ユ或トキ雷電アツテ彼モノヲ震

十一

藍弗 齋頭 飛狸 身ニ 生マ

殺ス即 脊ニ二門口月八三ト云文字アリ諸人意ヲシラス
 トキニ道人アツテ馬ノ鞭ヲ以テ脊ノ文字ノ上ニアテ見ニ
 市中用小斗ト云文字トナレリ 天台神註 是又順現業報ヲ
 シメスノ明證ナリ二三順次業トハ今世ニナストコロノ業次生ニ
 ウクルヲ云ナリ 齋頭藍弗或トキ林間ニ坐禪シモラニ鳥トク
 鳴テ喧噪鬧乱シテ久ク禪定ニアルコトヲ得ス故ニ厭テ池邊ニ
 移リ安禪セシトシモトム爰ニツイテ池中ノ魚遊イソカハウシテ
 禪思ヲ驚シカヒソシウス是又禪カヲ全フスルコトヲ得スエハ
 以即瞋恚ヲシツ井ニ惡願ヲ生ス願ク我未來ニ生セトキ翅ヲ
 著獺ノ身トナリテ樹ニホリテハ諸鳥ヲ害シ水ニ入テハ
 魚ヲ食ノ魚鳥ノ怨ヲ報セント思ヒサテ異處ニウツリ行テ
 志ヲ專ニシテ禪定ヲ習ヒ非想三昧ヲ證得シテ命終シ

後ニ非想非非想天ニ生レ順次業ヲ以ノ故ニ八万大劫異熟果ヲ受ト是ヲ順次業ト云ナリステニ非想八万劫ノ異熟果業三千ヲハリテ順後受業ヲ以ノ故ニ前ノ惡願ニムクテ欲界ノ中生メ水獺ツツトナリテ身ニ羽翼ウヨクヲ生ス是ヲ飛狸トビ身ト云故ニ虚空ヲ飛テハ諸鳥ヲ取テ害シ水中ニ入テハ魚蜂ハチヲ取テ食フト是ヲ順後業ト云ナリ

●ニ別答ノ中ニ自十科ノ別アリ一ニ今身端正ヨリ尊長中

來ニイタルニテハ現生受報ヲ以宿生ノ業因ヲシラシムニニ爲人喜嬌ヨリ睡鹿虫ニイタルニテハ今世ノ業因ニヨツテ將來ニ畜生ノ果ヲ感スルコトヲアカス三ニ前身著木履ヨリ百舌鳥ニイタルニテハ前身ニ僧物ヲケカスモノハ今身ニ畜趣ノ中ニ墮スルコトヲ舉四ニ汚淨行尼ヨリ斬截其身ニテハ逆罪ノ重ヲアケテ諸罪ヲ撮メ

イマシムルコトヲシメス五ニ爾時阿難ヨリ得度無疑ニイタルニテハ阿難上來ノ所説ヲ聞テ如來ニ入寺ノ用ヲ問フコトヲアカス六ニ佛言今身ヨリ還墮地獄ニイタルニテハ今世ノ罪因必墮地獄ノ相ヲシメス七ニ佛言為人ヨリ鼠中來ニイタルニテハ現在應報ノ相ヲアケシメテ宿世畜生タルノ品類ヲシラシム八ニ佛言為人ヨリ断氣而死ニイタルニテハ多クハ現生ノ業因ヲシメシテ後生ノ異熟等流ノ二果ヲアケテ其因遠ニ子クコトヲアカス九ニ佛告阿難ヨリ大聚因縁ニイタルニテハ業因廣多ナリトイヘトニメスヘテ十惡ニカキルト云事ヲアカス十一ニ爾時大衆ヨリ為人扶掖ニイタルニテハ上ノ懲惡ヲウケテ今勸善ヲシメスコトヲアカス

○一三現生受報ヲシメシテ以宿生ノ業因ヲシラシムル於中五

十箇ノ別アリ文ニイタリテレヘシ
今身端政者從忍辱中來

大集經云端正者從忍辱中來高姓者從禮拜中來下賤者從憍慢中來瘖瘡者從誹謗中來矣此等ノ全文大集經ニ出タリ五道經云為人端正顏色潔白輝容第一見無不喜從忍辱中來矣忍辱ニ五種ノ功德ヲ得一ニ能忍所打二三能忍所惱三ニ能忍所瞋四ニ八法不動五ニ煩惱不染一法數ニ諸法集要經云若人行忍辱晝夜獲安穩永離諸憂見ニタリ諸法集要經云阿難世々忍辱除瞋以是因緣故感後世常端正矣智度論云阿難世々忍辱除瞋以是因緣故生便端正父母以其端正見者皆歡喜故字阿難矣忍辱トハ法界次第云內心能安忍外所辱境故名忍辱矣曾聞ク此賢劫中ニ王ミシメス羯利王トナツクトキニ仙人アリ忍辱仙ト

夢窓國師

十二
忍辱
仙ノ
本縁

号ス一林ノ中ニ住ノ勤修苦行ストキニ羯利王男子ヲ除テツレテハ唯内宮人ヲ相具シ林間ニ遊戯シ諸ノ妓樂ヲナレテ意ニカセテタノシメリ久ホトヲ經テ王ヤリニツキ玉ヒ内宮ノ諸女華果ヲ取シタメニ林中ニ行キアソヒヌルニ遙ニ仙人ヲ見テ諸女三仙ノ處ニアツマル仙人諸女ノタメニ色欲ノ過タルコトヲ説ク諸女一同ニ欲心厭離シストキニ王子フリサメテ諸女ヲ見玉フニ一人モ見エス王即此念ヲナサク人アツテタフカレ去ルカト利劍ヲヌキテ處々ニ尋モトルニ即諸女仙人ノホトリニアツテ圍遶シ坐スルヲ見テ大瞋恚ヲ生ノ云ク是レイカナル大鬼ソ我カ諸女ヲアサキタラカス汝ハ是レ何モノソヤト答曰我ハ是仙人ナリト復々問此ニアツテ何事ヲナスソヤト答テ曰忍辱ノ道ヲ修行スト王此念ヲナサク此人我カ瞋ヲ見テノ故ニ即チ我忍辱ヲ修行スト云今正ニ試ト欲ソ

十三

世高 同學 隨蟻 蛇神

一臂ヲ伸ヨト云仙人一臂ヲノス王利劍ヲ以是ヲキル藕ノ根ヲ
 断ガコトシ王復責問汝ハ是レ何人ヲヤト答テ云我ハ是忍辱ヲ
 修スル人ナリトトキニ王ノ一臂ヲ伸ヘヨト至テ仙人一臂ヲノス王
 利刀ヲ以切コト如前王ニ夕責問仙人答ルコト夕如前如是シテ
 足ヲキリ兩耳ヲキリ兩鼻ヲキリ又身ヲシテ七分ニサカルトモ一
 念ノ瞋恚ヲ生ズ是レコレヲ忍辱ノ行人ト云ナリ新婆娑論 私二問
ニ出タリ
 忍辱ノ因何ソ端正ノ報ヲウルヤ答テ内心柔和ニシテ外辱ノ境ニ
 ツイテ能安忍ノ瞋恚スヘキノ人ニ逢テ還テ顔ウラカニ向故ニ
 其因スクニ引テ顔良端正ノ相ヲウルナリ
 為人醜陋者從瞋恚中來
 今ノ全文大集經ニ出タリ上三引トコロ 五道經云為人醜陋者瞋恚
 故矣釋ノ世高ハ安息王ノ太子ナリ常ニ自イヘラク先

伊良思至 波斯匿王 娘令則世 回去斯陀長者ノ一

身ニステニ出家タリレトキ一人ノ同學ノ友アリ瞋恚ハナハタ多シ
 乞食セシニ施主称セサレハ常ニ懲服ス世高レハク詞諫異見ス
 トモツ井ニ俊改セス如是スルコト二十餘年カ間ナリ後同學ト詞
 諫ノ云ク我マサニ廣州ニ行テ宿世ノ對ヲ畢ヘシ汝明經精
 懃ニシテ我カ後ニアラレ然レトモ汝カ性瞋多シ命ヲスリテ來世
 マサニ惡ラウクハレ我若レ得道共必ス相度スヘレトステニ遂ニ廣
 州ニ行キ冠賊ノ大乱アリレ路ニシテ一リノ年少ノモヲニ逢ニ手ニ
 ツキハキレ刀ヲスイテ曰クコトニ汝ヲ得タリ世高笑テ曰我レ宿
 命ニ汝ニソク故ニ遠ク汝カ忿怒ヲ相ヒ償フコトサラニ是レ前世ノ
 時ノ意ナリ遂ニ頸ヲ人ニ及ラウク容懼ノ色ナシ賊ツ井ニ是ヲ
 殺ス見ル者道路ニ盈滿ス世高ノ神識カハリテ安息王ノ太子ト
 尤即今時世高ノ身是ナリ後二世高中國ニ行テ化度レ至ラニ

錫ヲ江南ニ振テ云我ニサニ廬山ニ行テ昔ノ同學ヲ度スヘシト
 彼邨亭湖ニ廟アリ此廟モト靈威アリ高廟中ニ入ルニ廟神
 高ニ告曰ク吾レカレ外國ニシテ汝トトモニ出家シ同學ス吾レ
 コシテ布施ヲ行スレカレトモ本性瞋恚多シ故ニ今邨亭湖ノ大
 蟒醜陋ノ廟神トナリスカレ布施ヲ行セシヲ以ノ故ニ世人珍
 玩シテ公ハタ豊ナリ本ト瞋恚ヲナセシ故ニ此醜陋ノ神報ニ墮
 今モトノ同學ヲ見ル悲欣言ヘキニタラシヤ正ニ我レ壽命旦夕ニ
 ツキナシカルニ我形チ醜陋ニシテ長大ナリ若シコニツイテ命終共
 江湖ヲケカサシ今マサニ山西ノ澤中ニ渡ヘシト吾身滅後恐ク
 地獄ニ墮在セシト必セリ吾ニ絹千疋ト其外雜寶物アリ是ヲ
 以吾カタメニ法ヲタテ塔ヲイトナシテ善處ニ生セシメ至ヘト高
 云我汝カタメニ故ニ來リテ相度ス何ソ形ヲアラハサルト廟神

云形チハチタ醜陋ナリ衆人我ヲ見ハ必ス懼レナシト高云但
 出ヨ衆人アヤシメシトトキニ廟神牀ノ後ヨリ頭ヲイタス乃是
 醜陋ノ大蟒ナリ尾ノ長短ヲシラスト梁僧傳ニ出タリ今此廟神前生瞋
 恚ノ業因ニヨツテ醜陋身ノ報ヲ得タリキ今實業所感ノ凡身
 シヨストコロノ瞋恚盛心何ソ來世ノ形醜メヌカルヘキニ道ナキコト
 アラシヤ問瞋因何ソ醜陋ノ身ヲ感スルヤ答フ因果相順スルコト
 絲毫モタカス恰モ形ニシタカク影ノコトレ謂ク前生ニツイテ其容
 貳柔順ナリトイヘトモ瞋恨内ニフクヌルニヨリ親疎自他ヲカ
 ミス毎事イカリヲチレウラハカナリシ類類ニ忽ニ解ヲ立眼ヲ分
 言ヲアラクシ牙ヲチラレ齒ヲ咬其殘縁直ニ引テ今世ニ同
 故ニ醜陋ノ身ヲウクルナリ聖人イカリヲウツサスト云是コノ辜
 リニアラサル歟

為人貧窮者從慣貪中來

輪轉五道經云為人慣貪不怨已好獨食者死入地獄
 墮餓鬼中出生為人貧窮飢渴衣不蓋形食不供口矣
 今五道經ノモ只慣貪ノモノ地獄餓鬼ノ中ニ生スルハ是異熟
 果ナリ人中ニ生ノ貧窮飢渴ナルハ是等流果ナリ今當經
 コ只唯等流習果報ヲアケテ因果ヲシメスナリ 往昔過
 去迦葉佛ノトキニ兄弟二人アリ兄ハ持律坐禪ノ一心ニ佛
 道ヲ求ムシカレトモ其性慣貪ニシテ布施セズ弟ハ布施修福
 業ヲノミコノミテ破戒無慚ナリ今日釋迦如來ノ出世ニイテ
 兄ハ出家學道シテ羅漢果ヲ得タリシカレトモ衣ツ子ニ形ヲタ
 サス食ツ子ニ口ニアカス終日食ヲ乞トモ一鉢ヲ得ルコトナレ弟ハ
 大白象ノ中ニ生ノ國王ノタメニ愛セラレテ金銀珍寶ヲ以其

十四

兄弟

因果

別

論

身ヲ弃レリトキニ兄ノ比丘象ノ廐ニイタリ象ニ向テ云我カレ
 汝トトモニ罪過アリ象比丘ノ語ヲキイテ即宿命ヲレリ感
 信シテ三日マテ食事ヲクラハス守象ノ者ノ惶怖シテ即帝
 王ニツク王守象ノモノニ問テ先ニ人アツテ此象ヲ犯スモノ
 ナキカト守象ノモノ云唯一人ノ沙門アリ象ノホトリニ來テ
 須臾シテカヘルト帝王トキニ人ヲレテ彼沙門ヲタツ子モトメテ
 云汝象ノホトリニヨツテ何事ヲカ語ルト沙門ノ云此象ハ是
 我前身ノ弟ナリ弟ハ前生ニ廣ク福業ヲ修シテ布施ヲナシ
 學問持戒ヲナサス故ニ象トナレリシカリトイヘトモ本布施セシ
 故ニ飲食備足シ種々豐饒ナリ我ハ唯佛道ヲ修シテ布施セ
 今道果ヲ得ルトイヘトモ乞食スルニ得ルコトスナレ故ニ今飢渴ニ
 ヲヨヘリト 譬愈經ニ 如是六通無導ノ羅漢スラ慣惜ニシテ布

譬愈經ニ見ニタリ

十五

法頭 盜賊 誑 語

施セサレハ貧窮饑餓ノクルレニアヘリ何ニ況マ其餘貧窮無福ナラシモノ宿生ノ慣貪鏡ニカケテアキラカナラシモノヲマ釋ノ法頭三蔵同學數十人トトモニ稻ヲ刈トキニ貧窮飢渴ノ盜賊來リテ其穀米ヲ奪ヒ取リテ諸ノ沙門ハ悉ク逃起リ又唯法頭三蔵ノ獨リトマリテ賊ニ語テ云汝若シ穀米ヲ取リテ欲セハ意ニカセテ取ルヘシ但シ但シ郷等昔レ慣貪ニシテ布施セサル故ニ今飢渴貧窮ノ身ヲウク今復人ノモヲ奪ヒトシハ恐クハ未來ニイヨク貧窮ナラシ事ハチハタレカラスト爰ヲ以貧道法頭アラカレ汝等カタメニ未來ニ惡果報ヲウケシ事ヲウレウルノミト言フアリテ還ル諸賊法頭ノ語ヲキイテ穀米ヲステ去ルト梁僧傳ニ見エタリ此即貧窮ハ定テ是慣貪ノ果ナルコトヲ

十六

禮佛 五功 德

十七

周禮 九品 ノ拜

為人高貴從禮拜中來

五道經云夫人豪貴國王長者從禮佛法僧ノ中來矣又大集經ニモ見エタリ如增一阿含經云禮佛有五功德一得端正二得好聲三多饒財四生處高貴五生天上矣此等ノ諸文ニヨルニ禮佛ハ是高貴家ニ生スルノ修因ナルコトヲキクシカレニ禮拜ニ諸義ヲフクメリ周禮俗典ノ中ニ九品ノ禮拜アリ一三替首禮謂ク臣下君ヲ禮スルノ拜ナリ替ハ至ナリ首ハ頭ナリ拜シテ頭ヲ地ニ至ラシムルナリニ六頓首拜謂ク平敵クスルモノナリ諸侯タカヒニ概拜スルカコトレ即頭ヲ以テ下ニ向敵虚擗サテ首ヲ地ニイタラシムルナリ故ニ頓ハ字註ニ下首至地也トシカス上ノ替首拜ト頓首拜ト何シ別ソヤ答フ替首ハ直ニ頭ヲ地ニイタラシム頓首ハ虚擗シテ漸後ニ首カ地ニイタル是其別ナリ

十八

西域
九等
禮

十九

七種
禮法

三六空首拜謂之是ハ君臣下ニ答フク一拜ナリ即頭ヲ以手ニ
 イタルナリ四三振動拜謂ク敬重ノイタリ戰栗ト身ブルイレ
 動變ト身ヲウコカレテ拜スルナリ五三吉拜謂ク拜ノ後ニ誓
 首ス六凶拜謂ク額ヲ地ニフレテ後ニ拜ス七三奇拜謂ク奇ハ
 不偶ナリ禮簡ニシテ再拜セサルヲ云ナリ但一拜ナリ八三廢拜
 謂ク廢ハ報ナリ答拜ヲ云ナリ 即再拜是ナリ
 九三肅拜謂ク身ヲ直レ容ヲ肅テスコレ手ヲ下ヲ云今ノ婦人ノ
 拜ノコトレ俗禮モツテ如是佛教ナラ禮敬ヲ初トス 故ニ西域
 記云致敬之戒其儀九等一發言慰問ニ府首示敬ニ舉手
 高揖四合掌手拱五屈膝六長跪七手膝踞地八五輪俱屈九
 五體投地矣 或ハイハク禮法ニ七種ヲ存ス一ニ我慢心禮謂
 次位ニヨル故ニ我ヨリ位タカキモノニハ心ニ恭敬ナク師ヲ仰重スル

心モナク是ニヨツテ身ニ拜ヲナストイヘトモ心ハ外境ニ馳チリテ真
 實ノ思ヒナレタトハ唯ノ上下スルカコトレ空ク獲コトナレ是ヲ我
 慢禮ト名クニニ唱和禮謂ク是ハ我慢ニアラストイヘトモ心
 淨想ナク略廢儀ヲタレテ身心イッハリテ恭敬スルニ似タリ是
 コトニ口ニ唱ヘ心散スルニヨレリ是ヲ唱和禮ト名クニニ身心恭敬
 禮謂ク形チニ心ト共ニ恭敬ノ具念アルコトナク供養恭敬ノ情
 厭足スルコトナク功德廣大ナリトイヘトモ猶是智ナラス故後ニ多
 退没ス是ヲ身心恭敬禮トナツク四ニ發智清淨禮謂クコトニ
 佛境界ニ達スルニヨリ慧心明利ニシテ深ク法界ヲシル今息ハ
 是虛通無礙ナリト達ス故ニ禮佛ヲ行ス心ニ隨テ現量ノ
 一佛ヲ禮スルニ即一切佛ヲ禮ス故ニ禮一切禮全是一禮
 ナルコトヲ即是淨業キハニリナク果報カキリナレ是ヲ放智

清淨禮上名ク五六遍入法界禮謂クマコトニ行者ノ想禮
 自巳ノ身心ヒトシキニ元法ハ本ヨリ法界ヲハケレス亦諸佛ノ
 心外ニアラス又々諸佛ノ身内ニアラス我外ニアラス我内ニ非
 自性平等ニシテ本増減ナシ今一佛ヲ禮スルニ即アマ子ク
 諸佛ニ通ス是ヲ遍入法界禮ト名ク六六正觀修誠禮謂ク
 コレハ是自心佛ヲ禮スルコトヲ云他境他身ノ佛ヲ禮スル
 コトヲ縁セス何ヲ以ノ故ニ如是ナルソト云ニ一切衆生ニ自
 佛性平等ノ本覺アリ故ニ佛性ヲ見ント欲セハカナラス
 已佛ヲ觀セヨトナリ即同体ニシテ無ニナルヲ正觀禮ト名ク
 七六實相平等禮謂クコレ即上ノ正觀禮ト大意全ク同
 シ方レトモ前ハ禮アリ觀アリ自他ノ兩異ヲ存ス今此一禮ハ
 九聖一如体用同融シ如々平等ニシテ古今異ナク此心ニ

安住スルヲ平等禮ト名ク法苑珠林ニ出タリ今此七禮前々淺處ニシテ
 後々深細ナリ

爲入下賤從憍慢中來

憍慢トハ憍ハ驕恣也逸也慢ハ玉ニ輕侮也不畏也字彙
 情也急也倨也易之忽也不敬也俱舍頌曰憍由染自
 法慢對他心舉矣私ニ云憍ハ是奢ナリ謂ク自分ニ得トコロノ
 法ニライテ染著ノ微逸ナルヲ憍ト云慢ハ是蔑也我ニ得トコロノ
 法ヲ以他ノ所得ニ對ノ自心ヲ高ク舉揚ノ他ヲ慢蔑スルヲ
 慢トハ云ナリ今イハユル自ヲ高クアケ他ヲナイカレロニ世業因ニ
 ヲシテ今又々他ノタメニカロシメイヤシメラル、身ヲウクルナリ昔
 佛弟子ニ長老畢陵伽婆蹉ト云アリ常ニ眼病ヲウツナリ
 是人乞食ノ常ニ恒水ヲワタルニ恒水ノホトリニノソニテ

二十 名義 憍慢

廿一 畢陵 伽婆 餘習

指ノ云小婢水神ノ我ヲトメテ流スコトナカレトトキニ河ヲ
 ワタルニ水即西方ニワカレ去リ又故ニ乞食ニ往來シテ
 更ニサワリナレ爰ニ恒神佛所ニイタリテ佛ニ白ノ言サク
 佛弟子畢陵伽常ニ我ヲソレリテ云恒水ヲ渡タモコトニ小
 婢トメテ流スコトナカレト佛畢陵伽ヲ呼テ告テ今ハク
 汝ヲ恒神ヲノレリアナトルコト大ナルアマリナリ恒神ニ向テ
 懺悔シ報謝セヨト畢陵伽即時ニ掌ヲアハセ恒神ニ語テ
 云小婢イカル事ナカレ今汝カタメニ懺悔ス必ス我ヲトメテ
 流ス事ナカレト是トキニ大衆大ニ是ヲ笑フ云何懺悔シテカラ
 何ソ又タ恒神ヲアナトリノレルヤトトキニ佛ケ恒神ニツケテ
 至ク汝畢陵伽掌ヲアハセ懺謝スルコトヲ見ルヤステニ橋
 慢ナラシテカモ必ス流スコトナカレトイヘル事正ニ是ヲレルヘシ

此即惡心ニアラス此人五百世カ間タ常ニ婆羅門ノ家ニ
 生ノ橋慢高貴ニレテ諸人ヲ輕賤ス今過去ノ餘習ニ
 ヒカレテ口ニハ橋慢アツテ心ニハ其念ナレト智度論ノ如是
 聖者ノ上ニスラ慢心ノ餘薰アツテ其思ヒタチカタキアリ
 凡愚ノ橋慢ヤモスレハ諸人ノヲニストコロナリ來生ノ下賤
 必然タラシモノヲヤ唯フカクツクニ傲倨慢蔑ノ心ヲ生スル
 事ナカレト云云

爲人長大從恭敬中來

輪轉五道云爲人殊長恭敬人故矣今長大ト云ハ唯長
 高ク大ナルヲ云ニハアラス當經ト五道經ト交會シテ是ヲ
 カシカヘ見ニ當經ノ長大ト云ハ長タカク大ニレテ其形チ殊好
 ナルヲ云ナリ

恭敬トハ二字トモニウヤフト訓スレカレトモ

恭敬
名義

心ノウヤミイト形ノウヤミイト字意少シ異ナリ韻會云在貌
為恭在心為敬矣又云貌多心少為恭心多貌少為敬矣
問何方故ソ恭敬ノ因長大殊好ノ果ソウルヤ答恭敬ノ身體
カ弁リトノ人容貌ヲタシウルハレウスルヲ云ナリサレハ形ト心ト
二物ニアラス心ノコトク形ニアラハレ形ニアラハスコトク心ニ思フ
故ニ知ヌ心ニ思フコトク形スナラニ顔ウルハレウレテ人ヲ恭敬ス
爰ヲ以今身ニ々殊長ノ果ソウクルナリ性理字義云身
體嚴整容貌端莊此是恭底意但恭只是敬之見於外
者敬只是恭之存於内者敬與恭不是二物如形然未有内
無敬而外能恭者亦未有外能恭而内無敬者矣コレ則佛家
イハユル色心不二ト相似セルノ者歟

為人矧短從慢法中來

廿三

矧維
短小

廿四

馮偃
短小

廿五

矧短トハ今ニ世流傳ノ本ニ座短ニ作ル大ナル謬ナリ短ハ戈何
切音坐身短韻會ニ短也短ハ促也不長也五道經云為人
短小輕慢人故矣今イフトコロ矧短ハ上ノ長大ニ對シテ
見ルニ形チ短小ニシテ醜陋ナルモノヲ云ナリ
人トナリテ形チ醜陋シテ身レカモ短小ニ面又長ニ常ニ鏡ニシテ
曰七尺ノ身一尺ノ面ニハレカレト後ニツ井ニ宰相ノ官位ニイタルト
五代史ニ又馮偃ト云モノ我身ノ短小矧陋ナルコトヲ恥テ恐
子孫又我ニ似コトヲハカリテ子ノ仇モ々短陋ナル故ニ長クカキ
婦ヲメトレリ故ニ果シテ仇カ妻勤ヲ生リ長ケ八尺ナリ後チ
仕テ尚書ノ官ニ進リト唐史ニ是等ハ三寸短小醜陋ナル
人ナリ暗ニル宿世慢法人ナラシ事ヲサレハ今身ニ
即僑慢ヲ生スルモノハ死ノ東縛地獄ノ中ニ墮レ諸ノ苦

慢 陋ノ 因多 述

比丘 惡塔 大縁

惱ヲウク獄中ノ苦ヲウケラガリテ畜生ノ中ニ墮シ唯水草ノ
事ノミヲ念フ父母ノ恩艱ヲシラス畜生ノ中ニアツテ無量ノ
生死ヲウケ此中ニライテ若シ微善ニアルハ人身下劣ノ生ヲ
ウケテ邊地ニアツテ忠孝仁義ノ道ヲシラス三宝ヲ見ス若シ
中國ニアレハ短陋短矮ニシテ衆人ニ凌辱セラルニサニルヘシ
是橋慢ノ因ナリ地持經ニ分レ波斯匿王軍衆トトモニ寺ニ
入り一比丘ヲ見ル見エタリ形貌短矮ニ醜陋極盛ナリ
王是ヲ見ルニタエス即佛ニ問玉ク此比丘分レイカナル業因アツテ
此短陋醜陋ノ果報ヲウクルヤ佛即チ王ニ告玉ク乃往過去ニ
佛出世アリ迦葉佛トナツク入涅槃ノ後機里毗王其舍利ヲ
ヲサステ塔ヲタテント欲ス即四監奉行ニツケテ造ラレム其ノ中ニ
一人ノ奉行アリ塔ノ大ナルコトヲキラウ故ニ今ニ生ノ其形短矮ヲ

サ七 車波 加妻 多二卷 果ヲ

醜陋ナル事ヲウクト今ノ比丘コレナリト賢愚經ニ今一監ノモ
塔ノ大ナルヲキラヘルモ是又慢法ノ隨一ナル謂ナリ故ニ短
陋ノ生ヲウケレトナリ慢法トハトキニ六群比丘アリ自身ハ
下座ニ居請法ノ人ハ高ニ居テシカモタニ說法ス是慢法
ナルヲ以ノ故ニ佛ケ是ヲ呵責シ玉フムカシ波羅奈國ニ
一ノ居士アリ名テ車波加ト云其婦懷妊ノ菴摩羅果ヲ
食セン事ヲ子カフ即婦ニ語テ云我々ニ菴摩羅果ヲモトメ
得玉ヘト云夫答テ曰此菴摩羅果ヲ得ノ時節ニアラスト妻
即夫ニ語テ云君モシ此果子ヲモトメ得テアタヘ玉ハスハ我必
死スヘシト云夫ト其語ヲキイテ自念言スラウ我常ニ聞唯國
王ノ園ノ中ニ非時ノ果アリト云コトヲ因テヒソカニ夜ニキレテ
獨リ國王ノ園ノ中ニ行テ果ヲヌスニ取ルニイマダ取得ガ

中ニ夜ステニアケ又故三人ノ見ユトヲソレテ園ヲ出コト能ス
樹ノ上ニホリ蔵居ヌトキニ王ト婆羅門ト園ニ入り菴摩
羅果ヲ食セント欲ス即婆羅門ハ下ニテ王ハ高座ニテ
婆羅門王ノタメニ法ヲ説クトキニ果ヲスム人樹上ニテ是ヲ
見テ思ヘラク我今王ノ果ヲスムコトマコトニ以無法ナリ王
憍慢心ニヨル故ニ師ハ下座ニテ王ハ高座ニテ説法ヲ
聽聞ス是ステニ無法ナリ婆羅門利羶ヲ貪故ニ下座ニ
アツテ王ノタメニ説法ス是又無法ナリ今王ト婆羅門ト我ト
三人トモニ無法ヲ行フナリト即樹上ヨリ下テ王ノ前ニイタリテ
三人ナカラ無法ナリト云偈ヲ説テ去リヌト 善見律 今ノ國王
果報イニレキトイヘトモ是慢法ノ人ナリ來生ノ受報姓短
醜陋ナラシ事セラサルニイナレキモノヲヤ

爲人狼戾從羊中來

羊ハ 狼戾 尤證

五道經云爲人狼戾自用者從羊中來矣項籍傳云宋
義下令軍中猛如虎狼如羊貪如狼矣註謂羊愈率愈
不進矣狼戾トハ或本ニ狼戾ニ作ル狼ノ性ハ貪リ又戾故ニ
狼貪狼戾ト古語ニイヘリ併カラ今ハ狼戾ノ本ヲ正トスニ狼
五ニ云五開切犬齶聲也戾ハ説文ニ曲也增韻ニ違也韻會
身曲戾也又狼戾徐云犬善出卑戸會意矣今狼戾ノ二
字モトルトモ又ハモチルトモ讀ハ世俗ニイハユル子ルト云是ナリ
カレハ羊ハ性德トシ人ニ曲違ヌルモノナリ故ニ牽ハイヨクニ多クニ
ス子モチリテ跡エモトルモノナリ然ルニタメニ微善ノ結縁ニラレテ
入道ノ生ノウダトイヘトモ宿世ノ性執薰緣ニテ朋友ノ交介
不順ニ狼戾自用 私尤 ナルモノナリ今生ステニ亦ナリ未來ニタ

廿九

法師 前生 羊多 緣

近ニアラシ唯心ノ師トナツテ心ヲ師トセサレトイヘルノ遺誠
 先言マコトニ耳ニアリ因テ堅ク守ル足又キモノナリ俗
 儒ニ克己復禮イヘルモ己カ私欲ニ勝去ノ義ナリコト今
 心ト冥符セルモヲヤ釋ノ轉明ノ云ク或法師今現ニ大乘
 法ヲ誹謗ノ未來ニ惡果ヲ得ヘキコトヲカヘリニサレモノアリ
 轉明ノ云ク其ノ法師ハ前生ハ羊ノ中ヨリ來ルモノナリト
 イヘリ唐僧傳ニ今推ハカリ思フニ此法師世人ト狼戾ニシテ
 出タリ
 大乘ヲ誹謗セルノ人ナリ
爲人黑瘦從鄣佛光明中來
 瘦ハ扶救切音覆勞也又房六切音伏病重發也矣玉
 瘦ハ扶又切勞也再病也矣謂ク形チ黒色ニシテ醜シカモ
 勞病ナルモノヲ云ナリサレハ五道經云爲人醜黑遮佛光

三十

醜黑 烏丸 風業

卅一

明故矣シカニ今身ニ人ノ光明アルハ隱蔽ソレニシテ
 光明ヲ以三寶ヲ供養セス及テ三寶ノ光明ノ具ヲ儉三
 取テ己カ用ニシテ自照スモノハ死ノ黒耳黒繩黒闇地獄ノ
 中ニ墮ノ無量ノ苦ヲウケテ地獄ノ苦ヲウケテ穢惡ノ
 中ニ墮ノ光明ニアラコトスナシ若又微善ニアラテ人身ノ
 生ヲウクトイヘトモ形容醜黑ニシテ垢膩不淨ナリ故ニ世
 人ニ厭惡ソレノミナラス又眼前テ天地ヲ見ルコトアスルナリ
 此即光明ヲ隱蔽ヒ佛ノ光明ヲ又スニシヨルナリ雜寶藏經ニ
 見エタリ
 シカルニ藏經ノモロハ來果ニ幼ゾアカレ當經ハ現果ニ屬シテ云
 シカレトモ因果モト一ツナリ故ニ今引用ナリ光鄣トハ佛塔光
 燈ノ具ヲ又スニ或ハ光明アルヲカクシ蔽故ニ形黑勞病ノ
 報ヲウケルナリ釋ノ靈睿ハ身相黑短ニシテ身ノ多ク五尺也

聖曆
智凱
ノ形
黒

言ノ及フト口通悟ヲ先トス常ニ大乘ヲ講談スルヲ以且暮ノ
業トセリ又夕釋ノ智凱形相ヲ夕黒シテコトニ鳥ニ類ナリ故
號ノ鳥凱ト云見上唐僧傳今ニ高僧ノ傳ニ付思ニ往過ノ酬
報ナラシ耳

爲入緊辰月從嘗齊食中來

緊ハ急ナリキヒト訓ス脣アママリテ唇ニ作ル非ナリ謂ク緊
脣ハ脣及カヘリテ不合齒外ニアラハレ見ユラ云ナリ仇池筆
録云歐公曰有僧相我云耳白于面名滿天下脣不著齒無
事得謗其言頗驗矣脣不著齒ト云コレ是ヲ緊脣ト云フ
蓋シイフ歐公ハ是レカシ齊食ヲラカシナムルノ人ナラシ歟
嘗トハ説文口味之徐云口試其六味也矣正ク齊食ヲ食ノ
義ニラス指ラ鼎ニ添テヌス三味フク義ナリ齊食ヲ口ニ

齊食
名釈
卅二

ナムルコトヲ云サレハ好事ナキカ故ナリ謂ク貪心ニシテナムル故ニ
齊法ヲラカスナリ齊法經齊食トハ齊トハ身口二業ヲ齊ル
義ナリ謂ク朝明相ノ出ルトキヲ待テ粥ヲ食ヒ日中午ノニ食ヲ
クラフ云ナリサレ禪録ノ中ニ如何は無事底人早朝喫粥
午時喫飯トイヘル是ナリ毘婆娑論云夫齊者以過中時中午ノ不
食爲体矣只是中道ヲ表スルノ義ナリ日中ヨリ前ニ食スルトハ
正食ニハラス中道法界ノ外ニモ法アルコトヲ表ス或ハ中道ノ前
方便ナルコトヲ表スルナリ一代法數云一天食時謂清旦時則諸
天所食時也二法食時謂三世諸佛皆以午時日中爲法食時
過此即非時食三畜生食時謂日暮時也四鬼神食時謂昏
夜時也矣三是午時飯ヲ以齊食ト云ナリ即ニ世ノ諸佛ノ食
時ナリ今白俗アツテイタツラニ齊食ヲ嘗モロニテ脣ヲウルス

故今緊脣ノ報ヲウクルナリ
為人赤眼從情大光明中來為人雀目從
縫鷹鳥眼合中來

業報地獄經云謂有衆生兩目盲瞎都無所見或舐樹木或
墮溝坑於時死已更復受身亦復如是何罪所致佛言以前
世時坐不信罪福障佛光明縫鷹鳥眼合籠繫衆生皮囊盛
裏不得所見故獲斯罪矣赤眼トハ解スルニ二義アリ一云眼圓
黑眼黃赤ク猿ノ眼ニ似タリ故ニ世俗ニ猿眼ト云南蠻國邊
鴻ニアル黑身坊ノ類其身黒シテ眼目猿ニ似タルモノトシ是
ナリ一云眼赤ク爛テ陷リ血ツ子ニ込テ眼コ明ラカナラサルヲ
云ナリ火光明ト懸縮燃燈ノ一類供佛莊嚴ノ隨一ナリ智度
論云若人盜佛塔中珠及盜燈明死墮地獄若出爲人世世

卅三

阿那律ノ本生

生育チラ矣チレカルニ人アツテ佛燈ヲ然トキレ供養スヘシトイヘトモ
還テ悵シ惜シノ情アリテ時ニソシテトホサス佛前暗昧ナリ故
赤眼ノ報ヲ感ノ眼コアキラカナラサル事ヲウルナリサレハ佛
燈明了ニシテ尊像ヲ見ルトキハ其利ヲウルコトアリ
九十一劫サキニ毘婆尸佛入涅槃ノ後阿那律盜賊ヲナセリ或
ト佛塔ノ中ニ入り塔物ヲ盜ニテ欲スルニ佛前ノ燈カスカニシテ
ステニ滅トス賊人鑊ヤリヲ以燈ヲカキタテ明カニシテ塔物ヲ見盜
取レトセシトコロニ忽チニ佛像ヲ見テ威力心腑ニ感シ内薰密益
寒毛卓トク堅シテ則自念言スラタ今他人ヲ見ルニ所持財物
ナケウツテ福善ヲモトム我何ソ佛法物ヲウハイ取ン事ヲセシト
則盜三取ルトゴロ佛物ニテ捨去ス此モノ佛塔ヲカキタテ
明了ニテシ、福德ノ因縁カニヨツテ從是以來九十一劫恒ニ

因果經龜鏡卷五

二十一

善處ニ生シ福祐日々ニ增長ノヲトロウルト云コトナク其後今日釋迦如來ノ出世ニラフテ出家學道ノ阿羅漢果ヲ得天
眼第一ノ聖者タリキト譬喻無ニ見エタリ此即逆縁ナカラ佛燈ヲ明
ナラシムル功德カニヨツテナリ何ニ況ヤ人トシテ佛光明ヲ云
コトアラフヤ雀目トハ醫經ニハ元小兒疳疾ニヨツテ夜陰ノ
氣ニカツテ目見ルコトアタハサラ雀目ト云世ニ鳥目ト云モノ
是ナリ今ハ大人小人ニカハラス眼見エサルヲ雀目ト云ナリ
爰ニ知又鷹ノ眼コ澄アキラカニシテ物ヲ見ルコト速ナリ
シカルヲ其眼コヲヌヒ合セ晝ラシテ夜ノ如クナラシムル故ニ
雀目ノ報ヲ得ナリ

爲人瘖瘖從謗法中來

五道經云爲人瘖瘖謗毀人故矣地獄經云謂有眾生

卅四

臯陶

聽詔

無虐

刑

卅五

武氏

母

瘖

瘖吃瘖瘖口不能言若有所說閉目舉手乃不言了何
罪所致佛言以前世時坐誹謗三尊輕毀聖道論他好醜
求人長短強誣良善憎嫉賢人故獲斯罪矣瘖瘖ト玉云
不能言矣クモルトモコトモルトモ又ハラシトモ訓ス或ハ瘖ト
瘖ト其心少シカルナリ法位師云瘖者無聲不言瘖者有
聲無詮表矣臯陶ト云人瘖瘖タリシナリトキニ檢非
違使ノ官ニス、ニテ是非ヲタハス事アキラカニ天下ニ虛刑
ナレ故ニ臯陶ハ瘖ノ有實乎能言也淮南子ニ見エタリ馮翊武
鄉ト云トコロニ女子アリ耳聾ニシテ又々瘖瘖ナリユヘテ以テ
嫁セシ事ヲモトムレトモ人は是ヲ不入唯野ニイテ樵リスアル
人ノタメニ犯レテ一男子ヲ生ム其種姓ヲシカトナシ申省構
云生レテ武鄉ニアリ武ヲ以姓トスヘトイヘテ隋史ニ臯陶

卅六

法華

誹謗

因果

瘖瘂

罪因

及ヒ武氏カ母ニテ是業病ノ追フトコロニナラシ若ハ佛在世ニモ
 アシ若ハ佛滅後ニモアシ此法華經典ヲ誹謗スルコトアラシ
 モノ又此經ヲ讀誦シ書持スルコトアラシモノヲ見テ輕賤憎嫉
 セルモノ此人ノ罪報命終シテ阿鼻地獄ニ入り無數劫ヲ經
 歷ノ地獄ヨリ出テ畜生トナリ又人間ニ劣復ノ即聾盲
 瘖瘂ニテ諸根不具足ナラシ法華經ニ見エタリ或ハ先世ニライテ
 他ノ舌ヲキリ或ハ他ノ口ヲフサキ或ハ惡藥ヲアタヘテ言語
 スルコトヲ得サラシメ或ハ師匠父母ノ教訓ヲ聞テ反テソムキ
 或ハ惡邪ノ人トナシテ罪惡ヲナセハ惡趣ニ生シ福善ヲナセハ
 善處ニ生スルト云コトヲモ信セズ正法ノ語言ヲ破謗セシモノ地
 獄ニ墮シ地獄ノ苦ヲウケテ後チ微善ニアラテ人間ニ
 生スルトイヘトモ瘖瘂ノ報ヲ感スルナリト智度論ニ如是出タリ

諸説ヲ見ルニ瘖瘂ノ受報其因多端ナリ今ハ其一ツク
 アケテ餘ヲハ擧スルナリ

爲人耳聾從不喜聞法中來

五道經云爲人聾盲不聽法故矣聾ハミ、シイト訓ス字
 彙云聾盧容切音龍耳無聞也矣釋名聾籠也如在
 紫籠之内聽不察也矣鶴林玉露字義曰宋壽皇問王
 季海曰聾字何以從龍從耳對曰山海經云龍聽以角
 不以耳矣サレハ龍耳アリト雖聞クコトアタハス角ヲ以モノヲ
 聞ク故ニ耳聞コトナキヲ聾ト云ナリサレハ聞法ノ德
 用ハチハタ多シ普曜經云若有賢人聞是經法又手自皈
 成八功勳一得端正好色二得力勢強盛三得眷屬滋茂四
 速得辨才無量五學疾得出家六所行清淨七得三昧定

卅八

聞法

八德

聞法 鳥切 利天 三生ス

八得智慧明無所不照矣。ムカレ佛在世ノトキ一人ノ比
 丘アリ林中ニ獨坐ノ經ヲ誦トキニツウ鳥アリ法ヲ聞敬愛
 シテ樹上ニアツテ聽トキニ獵師アリ是ヲ見テ射テ死ス此
 鳥聞法ノ良縁ニヨツテ忉利天ニ生シ面貌端正ニ倫匹アル
 コトナレトキニ宿命ヲサトシテ我今此天ニ生ノ顔貌端
 嚴ノ果報ヲウルコト比丘ノ經ヲ誦トキニヨリ我其法ヲ聞ク
 善縁ニフレテ此天ニ生スナリト即天華ヲ以人中ニ下リ比
 丘ノトコロニイタリ供養ス比丘具サニ六ヲキイテ其カタメニ説
 法シモフニ天人是ヲキイテ即須陀温果ヲ得テ天上ニカヘル
 佛法非器タル禽鳥スラステニ法ヲキイテ尚福報ヲウルコト無
 量ナリ何況ヤ人倫ニライテ信心無ニ聞法共寧名善果
 報ナカラシヤ賢愚經ノコトナリ 如是聞法功德カアルコトヲモカヘリス共

耳聾 報不 寫二 因證

民田 張蕪 蕪症 名述

性愚憊ニシテ説法講論ノ席ニソシテ公耳ヲ塞テ不聞頭ヲ
 掉テ逃去ル故ニ來生耳聾ノ報ヲウクルナリ。或ハ曰耳聾
 ノ行因是多端ナリ師長ノ教訓ヲウケス不行反リテ瞋恚ス
 モハ是罪ヲ以ノ故ニ聾聾ノ病疾ヲウレウ或ハ一々衆生耳ヲ
 キリ若シハ衆生ノ耳ヲ破リ或ハ佛塔僧塔ノ槌槌大鐘鈴貝鼓
 等ノ類ヲヌスルモ耳聾ノ罪報ヲ得ナリト智度論ニ出タリ。本三
 原縣ノ民田薩埵ト云モノ生レテヨリ以來耳聾ノ病ヲウク又
 張蕪ト云モノ胎内ヨリ瘖瘖ナリキト四朝高僧傳此即佛
 法ヲ聽聞スルコトヲコノムサルモノナランノミ
 爲人缺齒從喜咬骨穴中來ル
 缺齒トハ牙齒缺脫ノ義ナリカケバト訓ス字彙云上曰齒下
 曰牙矣。醫經ノコト口前ノ上下ノ二八十六ヲ齒ト去後ハ上

牙齒ノ生ト齟ト自然ノ數多ク弁

下四々十六ヲ牙ト云牙齒合テ三十二箇アルモノナリ説文ニ齒口齟骨也禮記註疏云男子八月生齒八歳而齟女子七月生齒七歳而齟是八壽之數矣今私ニイハユル男ハ八ツカサトル故ニ八解ニシテ齒生シ八歳ニシテ齒落カハルニ八十六歳ニシテ腎精滿チ齒牙充實シ八々六十四歳ニ腎精ツキ齒ヲツ女子ハ七月ニシテ齒生シ七歳ニシテ齒ヲチカハルニ七十四歳ニシテ腎精滿チ齒牙充實シ七々四十九歳ニシテ精ツキ齒ヲツ是ハコレ自然ノ數ニシテ業因ノナストヨロニ非ス今其人壽ノ數ニヲヨバス或ハ病疾ニヨリ或ハ折傷等ニヨリ或ハ毒藥等ニヨリ或ハ自齒カケ聲音々シカラズ至味口ニヲホヘサルアリ此等ハ是前生ニ徒ラニ骨肉ヲ咬食ヘルノ因ヨリヲユル

四三

菩提達摩律師カ毒藥ニテラヒテ

達摩光統毒藥ニ中ニ述

齒カケヌ故ニ缺齒老胡ト字イムルモ宿業ノ逐トコロナラシ咬骨宮トハ曲禮毋齧齒骨矣前漢食貨志罷犬羸老易子而齧其骨矣咬ト齧ト本ト同字ナリ突ハ古ノ肉ノ字ナリ爲人塞鼻從燃不好香供養佛中來塞鼻トハ鼻ノ不聞ノ病ナリ字彙云鼻塞曰鼽矣是鼻ノ病ナリニカルニ燒香供佛ハ本ト是佛ヲ請スル事ヲ擬スサレハ凡夫ハ佛ト其心ヘタル故ニ目ニ佛ヲ見レトモシラス爰ヲ以テ佛ヲ香ヲタキ徧ク十方一切ノ凡聖ヲ請セシムルコトヲラシニ増一阿含經云若有設供者手執香鑪而唱時至佛言香爲佛使故須燒香徧請十方矣感通傳云天人費氏云人中臭氣上熏於空四十万里諸天清淨無不厭之但以受佛付屬令護於法佛尚與人同止諸天不敢不來故佛法中香爲佛事矣

四四

香ヲ德義

法佛尚與人同止諸天不敢不來故佛法中香爲佛事矣

脣亡毛脣缺毛全同。穿魚鰓トハ鰓ハ桑才切。中骨矣アキト、讀ム今漁人河海ニノシ餌ヲ鉤頭ニホトク是ヲ深潭ニタルハ魚鱗是カタスニ鉤テロク缺キ鰓ヲ穿チヤフラル、故ニ今生缺脣ノ形ヲウクルナリ

為人黃髮從殲獵猪中來

黃髮トハ老人ノ黑髮カハリテ黃髮トナルト云ニハアラス生來ヨリ黃髮ニシテウルハレカラサルヲ云ナリ殲獵トハ此兩字具畧有無諸本ノ異有之今ハ具ニ殲獵二字アルノ本ニヨルヘシ其理タシキ故ニ殲ハ將廉切微也盡也滅也刺也春秋齊人殲于遂矣獵ハ息廉切音織獸名猪專於切音諸說文豕也集韻或作猪豕矣問猪豕ヲ殺セルモノ何ソ黃髮ノ報ヲウクルヤ答其理解難シ今義ヲ以是ヲ試ニ猪豕殺ルトキ痛苦タカクシテ

言

身毛ミナ赤ク黃故ニ其類ヲ以今ニタ黃髮ノ報ヲ感スルナリノ爲人穴耳從宵耳中來

穴耳トハ耳ニ輪ナキモノナリ俗ニ井戸耳ト云是ナリイニヒノ聖人老子其耳漫シテ輪ナレ故ニ號ノ聃ト云聃ハ耳曼シテ無輪ヲ云ナリ如是類ヲ穴耳ノ人ト云歟或ハ夏ノ禹王ノ耳ニ三穴アリ渠率カ耳尤モ緩テ肩ニ下ルコト三寸ナリト僂耳國ノ人其耳大ナリ洛下ノ道經耳ハナク長大ナリト三寸是業報ノ生ナラシ歟宵耳トハ一本ニ穿耳ニ作ル大ニ非ナリ宵字アヤマレナリ穿韻會云通也廣韻ニ孔也增韻ニ鑽也鑽也又鑿也或作宵矣 爲賈字ハ佰贏ト云楚王兵ヲ爲賈ニ治シト爲賈即治シルニ七人ノモノヲハ鞭チイシメ三ノモノヲハ耳ヲ貫通ス國ノ老人三ナ慶賀ス爲カ子ノ文賈ナリトケナレヲ

四九 爲賈 兵ヲ 治ス 述

五十

穿胸

クレテイタリスレモヨコハス豚以者何七人ヲ鞭チ三人ノ耳ヲ
 ツラヌキクルシムル事サラニ我賀ヘキトヨロシラスト信公傳ニ見エタリ
 如是人ヲレテ耳ヲ貫穿シクルシムルモノ穴耳ノ報ヲウクルナリ
 五道經云生穿鼻人國者布施作福悔惜心故矣穿
 胸國ハ盛海ノ東ニアリ其國ノ人民ニテ胸ニ竅アリ尊貴豪富
 者ノ衣ヲ脱去貧賤ノモノニ命ノ竹木ヲ以胸ノ穴ヲ貫通シテ
 是ヲ擡シメテ行ナリト三才圖會ニ見エタリ此即今ノ穴耳ノ報ト相似類
 セルモノナリ

為人蛇體從著輕衣盪突佛像中來

五一
 蛇体
 各義

五道經云為人生在裸國者輕衣入精舍故矣肝引ハ裸形ト
 云當經ハ蛇体ト云其意同蛇体トハ皮膚鱗々チテ蛇形ニ
 フルニ似タリ世ニ鮫膚ト云是ナリ或ハコ世瘡癬疥馬瘡ナリ

イヘルニナ此一類ノ症ナリ輕衣トハ輕重ノ輕ニアラス輕傷ノ輕ナリ
 盪突トハ或ハ摑揆亦ハ僥倖ニツクル韻會ニ云僥倖觸也又不
 遜也矣今觸也ノ字訓ヲ以解スルトキハ垢穢不淨ノ衣類ヲ
 著ナカラ佛像ニ觸サハルノ義ナリ不遜ノ字訓ヲ以義ヲ釋ス
 トキハ不遜ハ揖讓謙退ニアラサルノ誡ニレテ無禮不義ノ謂ナリ
 故ニ輕衣ヲ著ナカラ佛閣ニ往來ス因テ佛像ヲ恭敬尊重ル
 コトナキヲ不遜ト云此即盪突ノ義ナリ

為人黑色從安佛像著屋簷下烟熏處中來

安ハ說文止也定也即安置也簷ハ字彙云移廉切音炎屋
 簷ハ烟煙ト同シ火ノ鬱氣ヲ熏ハスフルト訓ス說文云火煙
 上出也本作爇从火中从艸熏象也徐曰物之受煙唯草為甚
 故从艸四象亢火炎上出礙於草故為爇司馬氏云隸作熏

五二

慧靜傳

穹室熏鼠謂以草熏之也增韻氣蒸也矣爰知前生
 フイテ佛像ヲ構カキムラクトイヘトモ尊重恭敬ノ心ウスク盛モト下
 煙蒸ノ内ニ擲ナゲチフイテ色像黑事黑漆シク桶裏ニ黒汁シクヲ盛モトニ
 似タラシムルコトヲイタセトモ其イタス心ナキモノ今黒色醜陋ノ報
 フウクルナリ **釋**ノ慧靜姓ハ王氏東阿ノ人ナリ少シテ伊洛ノ
 間ニアソヒテ學セリ後ニ徐究ト云トコロニアソヒテ容貌シクハ多黒ノ
 識悟清遠ナリト 慧靜傳ニ 如是爽神通悟ノ人顔容黒色ナル
 コトヲ得テ定テ知ヌ宿業ノ殘縁ナラシメテ或ハ云阿難請戒律
 論云安經像房堂シク簷前シク者依初利天歲數八百歲犯重突
 吉羅シク傍報二億歲墮猪狗中生若得人身一億歲恒常作
 客栖屑シク 往來不安不得自在矣今經ノ犯罪ト稍同シ果報少
 異ナリ

爲人癡健從見師長不起中來

癡健トハ癡ハ五云力貞切癡曲カク身曲也癡ト癡ト同シ癡
 癡癡カク癡何トモ通ノ同シ即體傷曲ノ病ナリ癡ハ說文人
 不能行也徐曰不能行故止矣賢愚經法華經等ニ癡健ニ
 ナス醫經ニ癡健ニナス孫允賢云腫滿癡健矣註ニ癡手足
 曲也癡人不能行也矣己則手足カマリナヘテ行歩ノカナハ
 カルヲ癡健ト云ナリ師長トハ周禮云爲人之長訓物之規名
 師長矣寶積論云師長者若能助益長秀之聖者也矣今
 師長ヲ見テ不起ノ因ノミアラズ癡健ノ受報其因數多ナリ
佛陀耶舍此ニ覺名ト云彌實國ノ人ニシテ婆羅門種
 姓ナリ世外道ノ法ヲ信ノ專ラ邪見ヲ事トスナキニリノ沙門
 アリ其家ニ來リテ食ヲ乞其父イカリテ人ヲ沙門ヲ打ト

五三 覺名 父感 現報

五四

慧海 依佛 舍利 瘡疾 瘡述

父遂ニ手脚ヲ攀躄ニレテ行止スルコトアタス乃ハ巫師ヲ呼テ是ヲ問テ巫師答テ曰ク汝人ヲレテ沙門ヲ打シス犯ススヨツテ鬼神ノ願現業ヲレテレカラレムナリト父大ニ驚即沙門ヲ請フノ懺悔シスレハ數日ニ攀躄瘡ヲト高僧傳ニ見エタリ

現因現果ニ約ス又釋ノ慧海佛舍利ヲ熊州ノ十善寺ニ送ル其節ヲ攀躄シ及ヒ痼疾ナルモアリ數十年ノ間藥術ヲツクストイヘトモ瘡コトアタス上ニ佛舍利十善寺ニイタルト云

コトヲ聞テ與ニ乘來テ禮拜シ懺悔シスレハ忽ニ攀躄ヲ患フ安テ身カクク健ニレテ步行シテ高僧傳ニ見エタリ

果ニ約ス如是ニ業病藥力ノ及ホトヨニアラス唯佛力ノ冥助ニヨラスハ何ソ治シ得ルコトアラシマ

爲人ノ瘡脊ヲ從輕衣出入背佛像中來

五五

子輿 背癭

五六

崔善 回俛

五七

藁 駝 傳

俛ハ龍遇切俯也病俛身曲病也林希逸云偃背曲也俛腰曲也俯身伏於地矣脊ハ說文背呂也釋名積也積ハ骨節脉絡上下也矣今俛脊ハ脊肉暴起シテ身前曲行コト俯ナリ和俗ニ背蟲ト云是ナリ子祀ト云モノ行年五十四歲ニレテ偃俛ヲマリ又子輿ト云モノ俄ニレテ拘々タル病アリ曲俛ニレテ背ニ發ス故ニ五歲ハ頭ヨリ下ニアルモノナルニ身前二俯キカニル故ニ五歲ハ還テ頭ヨリ上ニアリ頤ハ臍ヲカクニ肩ハ頂ヨリ高ト莊子太宗師崔善ハ尚書丞ノ官ニラレリ身短小ニレテ俛リ又衆人嘲ケリ笑テ云崔善ハ身カニリテ鉤ノ如クナリレトイヘトモ例ニレタカツテ封侯ノ官職ニスム轉ノ上ニ全ク項ナレ骨ノ前ニ別ニ頭アリト唐史ニ見エタリ

駝ト云モノアリ姓ハ郭ト云始ハ何レノ各ト云コトヲレラス後ニ俛

脊ヲ病テ隆然ト背高ク常ニ伏シテ行ク馬ト云馬背ノ
肉高クフクレテ橐ヲツケタルニ似タリ今郭カ儂僣ヲツ
ラツテ腰カニマリ背高クアカリテ彼馬ニ似タリ故ニ郷人
号ノ郭橐駝ト云ト橐駝傳ニ見エタリ上來背儂ノ形ヲウクルモノ手
業病ノ感得多シモノ歟問上ノ著輕衣盪突佛像今ト
何ノ別ソヤ答一因多果多因一果ナルコト經文多途ナリ一
概ニシテ論スルコトナカレ例共法華ニ謗法ノ因業ニヨテ聾
盲瘖癡貧窮卑賤背儂攀躄暗鈍癡陋等ノ種々ノ
惡報ヲウクルトイヘルコトシ今モ又余ナリ輕衣ヲ著ノ佛
像ヲ盪突シ又輕衣ヲ著ノ佛閣ニ往來ノ佛像ニシムク
コト元一因ナリトイヘトモ其罪因ツヨキニシルカ故ニ蛇体又ハ
儂脊ノ多果ヲ緣スルナリ或ハ云上ハ輕衣ヲ著ノ佛像ニ

フルト輕衣ヲ著ノ佛寺ニ往來出入シテ佛像ニシムクト
其因是異ナリ應知

為人脛額者從見佛不禮捉手打額中來

脛ハ説文脛也釋名莖也直而長似物莖也矣今イフコ
只毛髮ヌケアカリテ額ノホト直ニシテ長シ故ニ脛額ト云世俗
出額ト云是ナリ打額ト古老ノ云佛額ナリト又タ已カ額ナ
ト意味各ノ一義ニシテ是非更ニシリカタシ今掌試ニ言フ已レカ
額ト見ルト其理ヨシキ歟ニイカントハ上ニ見佛不禮ト
アリステニ佛ヲ見テ禮セト欲ノ還テ禮セス或ハ外道ノ見解ニ
住シ或ハ貴已等佛ノ慢相額上ニアラハ已カ額ヲ打テカヘル
故ニ脛額ノ形狀ヲナシ感得セルナリ陶弘景字ハ通明身ノ
長七尺七寸眼アキラカニ眉毛ヤウスク形チヤセテ細額ヒ又ケノ

五八

打額
名義

五九

弘景
傳

アガリテ長ク書ヲ讀コト數萬卷ニラヨフ一事モ不知事アト
大ナル恥ナリトテ琴瑟ヲ善シ笙ヲ吹クコトヲコノ三圍若
タクニ草隸ノ手ナキニ精イニ夕彌冠ナラサルニ齊ノ高祖ス
宰相ノ官ニナレテ後六此官ヲ辞シ去テ句曲茅山ニ居
館ヲタテ自華陽隱居ト号ス馬乘ヲナシ射獵ヲコトス或ハ
松風ヲ愛シ庭院ニ松ヲ植テ樂トス或トキ夢ニシテ佛授記
勝力菩薩ト号シテモリト祖庭事苑見エタリ此即佛記ヲウケレボト人
ナレトモ出額ニシテ慢心ヲカキ人ナリ今カガリ知ニヌ性習情
慢ニシテ佛ヲ禮セス還テ已レカ額ヲ打テカル人ナラシ
爲人短項從見尊長縮頭走避中來
項ハ說文頭後也矣釋名確也堅確受枕之處矣項短シテ
肩トヒトシ是ヲ短項ト云世ニイヒトイヘル是ナリ張華子西

賦鮪鯢鱗鮒脩額短項矣五車韻瑞註云介族之形矣コノ
魚類ニテイヒナル形ヲ云ナリ短項ノ人此等ノ魚ノ形ニ似
タリ三尊長トハ尊ハ君ト父ト師トヲサス長ハ有徳ノ人及兄
黨等ヲサスナリレカニ其性ツタナレテ尊長ヲ見テハキラヒ
ステ頭ヲ縮テカクレ退ク故ニ其似タルヲ以今又短項ノ形ヲ
得ナリ玄忠師云誹謗正法毀善賢聖損斥尊長初是
之人應受拔舌苦瘡苦言教不行苦無名聞苦英
於中損斥尊長今見尊長縮頭走避ト云ト其意粗類
感果稍別ナリ是即業果多端ノ謂ナリ
爲人心痛病者從斫刺衆生身體中來
斫ハ字彙云刀斬也集韻擊也刺ハ說文君殺大夫曰刺
刺直傷也尔雅殺也公羊傳刺之者殺之也矣耿豪曰按

六十

費氏

心痛

カ把稍直研直刺矣今分り思因地ニライテ或ハ官吏ノ權
 勢ヨリ或ハ武夫ノ勇力ニカセ一切庶民ニライテ罪科ノ有無ヲ
 夕サス研之刺之直ニ殺害ス此トキニイタリテ恐ニ冬ス心胸痛
 痛スルコト夕ト夕ト上ルモナレ故ニ今亦心痛ノ症ヲ患ナリ五車韻瑞
 云北齊孝昭性至孝太后嘗心痛帝以爪搯手心血流矣
 宋ノ羅璣カ妻ノ費氏ハ寧蜀ノ人ナリ費氏カ父ノ悦ハ宋ノ
 寧州ノ刺史守護ナリ費氏少トキ敬信ニシテ法華經ヲ誦スル
 コトマニ年久シ忽ニ心痛ヲワツラツテ苦シムコトハ夕夕
 已ニ死ニシトス費氏心ニ念スラク我法華經ヲ誦スルコト
 念コトナリヨロレク善祐アルヘシトヨ子カハクハ我誦經ノカ依テ
 死サフコトナリ其トキニ即時ニ子ムルコト食頃ホトナリニ夢トモ
 ナク現ニモアラヌ佛牒ノ中ヨリ手ヲノヘテ費氏カ心ヲ摩テ

六一

曾參

孝感

六二

敬業

孝心

カト見ニ時ニ應ソ心痛スヘテ差ヌト一堂ノ男女奴婢悉金光ヲ
 見香氣ヲカクト迷異記ニ此即藥方ノ治スルニ非ス誦經念法ノ
 功薰ニヨレルモノナリ曾參字ハ子輿ト云母ニツカフツリテ
 至孝ナリ曾參カツテ薪ヲ山中ニトル或トキ其家ニ客イタルコト
 アリキ參イニ夕家ニカヘラス母即已カ指ヲカム參忽ニ心痛ス
 因テ薪ヲ負テ家ニカヘリ母ノ前ニ跪テ其スヲ問母云ク急客
 アリ吾指ヲ咬テ以汝ヲサトスト孝行録ニ又唐ノ裴敬業カ父
 陳王與ニ殺ル敬業トキニ城中ニアリ忽ニ自覺テ涕ヲナカレ飲
 食スルコトナレ即喪人ニ謂テ云我大人父九ツ痛トヨアレハ我必
 心ヤスカラス今日心痛テ手足ニ廢コトナリ夕夕ナリ事不測
 義ナリニアリト云テ遂ニ故郷ニカヘリヌルニ父果シテステニ
 死セリト見タリ

今經所制ノカキリニアラサレナリ

因果經龜鑑卷之五

高照山藏書

因果經龜鑑卷之五

三十三

